

株式会社 谷口農場

■ 大切なのは社員と経営理念



〈法人の概要〉

所在地: 〒078-8340 旭川市東旭川町共栄 255 番地

代表者: 代表取締役 谷口威裕

構成員: 15 名 (構成農家 3 戸)

役員: 4 名 常時雇用者: 10 名

設立: 昭和 43 年 3 月 資本金: 4,400 万円

事業内容: 水稲、野菜(転作含む) / 農産物加工、飲食店舗、直売所

水稲 31.3ha(特裁 21.1ha)、トマト 6.7ha(有機 3.6ha、特裁 3.1ha)、スイートコーン 3.3ha、黒大豆 1.7ha 他 (H22 年)

経営面積: 47.7ha

売上高: 3 億 4500 万円 (H21 年)

電話: 0166-34-6699 FAX: 0166-33-3048

URL: <http://www.tomatofarm.co.jp>

〈法人のあゆみ〉

昭和 43 年	有限会社谷口農場を設立(1 戸 1 法人、水稲 6.2ha でスタート)
45 年	減反の対策としてエノキダケ栽培を導入
53 年	ホルスタイン育成牛の飼育を始め、土づくりを推進 ~H6 年まで
62 年	本格的なクリーン農業に取り組み
63 年	特別栽培米による直販を開始
平成 4 年	トマトジュース工場を新築
9 年	トマトもぎとり事業を開始
12 年	総合的なアグリビジネス戦略「マザーファームの経営戦略」策定、農場直売所を設置
14 年	農場レストランをオープン、体験事業をスタート
19 年	株式会社に移行
21 年	旭川市旭山動物園に直営店をオープン

〈設立の経緯・設立後の状況〉

・旭川で 4 代 100 年以上にわたり農業を営んできた谷口農場は、現代表の先代が後継者対策として個別農家経営を法人化して昭和 43 年 3 月に有限会社としてスタート。給与制や休日制を導入した。昭和 45 年に米の減反政策の対応策として、また法人の通年就業体制の確立のためにエノキダケ栽培を導入。夏季は水稲、冬季はきのこ栽培による法人の安定した収入確保に取り組む。

・先代から経営を引き継いだ現代表は、家族の健康問題から食の安全・安心に関心をもち、クリーン農業に取り組み始めた。昭和 53 年にはホルスタイン育成牛の飼育(最大 35 頭)を始め、土づくりを進めていった。また、昭和 62 年に特別栽培米制度が創設されると同時に米の直販も開始し、消費者のネットワークを組織した。

・昭和 62 年にトマトの試験栽培を開始し、自家用のトマトジュースを委託製造。翌年の市民農園の収穫祭で完熟トマトジュースが大好評となり販売を開始したが、外注先の製造ミスなどで大量の在庫を抱え、加工・販売からの撤退が迫られた。しかし、平成 4 年に自社のトマトジュース工場を新築し、再出発し、その後売り上げが増加。平成 9 年には、完熟トマトのもぎとり販売を開始し、売り上げが 1,000 万円を突破した。

・平成 12 年にマザーファームの経営戦略を策定。農場直売所をはじめ、飲食店の開店、体験事業など、次々と事業を展開していった。平成 19 年には株式会社に移行した。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・人材の定着化を図るためには、従業員の給与をはじめ福利厚生充実が必要となり、会社の売り上げや収益を上げることが重要な課題であった。この対応策として、農業生産のみによる収益に頼るのではなく、農産物の付加価値を高めた「ものづくり」や、サービスの提供などに取り組み、安定した収益の向上のために事業の多角化に取り組んだ。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・多様な経営リスク(人材、災害、気象、技術、農業政策など)を分散する仕組みづくりができること。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・商品取引などのトラブルに対応するため、事業部制を導入しました。
- ・社内会議や報告会を定期的に開催し、経営方針の決定、従業員間の情報共有化を図りました。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・守っていても何も物事は進まない。攻めの意識をもって、どんな会社にするのか具体的なイメージを描き、そして実行に移していくこと。

〈特徴的な活動や取り組み〉

【グリーントラスト事業】

経営理念の共通する取引先へ継続的、安定的に量販することをめざした事業を展開。

- ・有機栽培商品の安定供給
- ・OEM商品受託製造

【パートナーシップ事業】

地域の農業法人や異業種の企業との連携により、新しいビジネスの創出をめざした事業を展開。

- ・業務提携の強化
- ・ニュービジネスの創出

【マザーファーム事業】

地元に対する農産物の提供や農業体験や加工体験を通じて、地産地消の拡大をめざした事業を展開。

- ・宅配業務
- ・農場直売所「まっかなトマト」
- ・トマトもぎとり園
- ・体験農業「わんぱく農場」
- ・手作り体験
- ・飲食店「赤とんぼ」
- ・イベント広場

〈経営目標と将来の展望〉

- ・農と食と観光を融合させた農場づくり(マザーファームの具体化)。
- ・環境保全の技術を深化させた総合エコファームづくり。

〈経営理念〉

三健農業の確立

～大地の健康を守り、作物の健康を養い、人の健康を育む農業を実践します。～

〈視察の受入〉

詳細については要相談。視察は有料。

連絡先: 0166-34-6699 (担当:代表取締役 谷口威裕)